



No16 伝えたいことは正しく伝わっていますか？

— 「言葉どおりに受けとる」ということ —

お母さんがスパゲッティを茹でていると、電話のベルが鳴りました。そこで、お母さんは子どもを呼び、「お鍋見ててね。」と言い残して台所を離れました。電話を終えて台所に戻ってみると、吹きこぼれる鍋を、子どもはただじっと見ているだけでした。『お鍋見ててね』と言ったのに。」と怒る母親を前に、子どもは「うん。ちゃんと見ていたよ。」と得意げに言ったのでした。



言われたとおりに見ていたのに...

さて、この後どうなるかを想像してみましょう。多分、子どもは「頼まれた仕事をしなかった。」という理由で母親に小言を言われ、不満に思うことでしょう。そして自分は悪くないと思いつつも、結果として失敗体験となってしまうのです。

では、どうしてこのようなことが起こってしまったのでしょうか。



お鍋見ててね。

実は、「お鍋見ててね」の中には、言葉としては表現されない意味が含まれています。例えば、

- ① 鍋を見ていて
- ② 吹きこぼれそうになったら
- ③ 火を止める

②や③のように「言葉としては表現されない意味がある」ことを理解していなければ、当然、表現された言葉どおりの行動のみをすることになるのです。

日常生活においては、「ことばとしては表現されていないけれど、当然このように行動するだろう。」と期待される状況が多々あります。いわゆる「常識」や「暗黙の了解」と言われるものです。

それらは、特に教えられなくても経験の中で自然と身につけていくことが多いのですが、なかには、それらが自然には身につけにくい子どもたちもいるのです。

「言葉どおりに物事を受けとりやすい」お子さんには、

- ① **今の状況やお子さんのすべきことを、一つ一つ具体的に丁寧に根気強く伝えましょう。**
⇒ こういうときは、こうしましょう等
- ② **伝える際は、お子さんにとって分かりやすい方法を使いましょう。**
⇒ 絵や図といった視覚刺激等

